

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
人間の尊厳と自立	講義	15	30	1	前期	水曜	2限	必修	菊池 義信
[科目のねらい] 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。									
[科目の概要] 人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。一つは福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。									
[到達目標] ①人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解できる。 ②人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できる。									
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「人間の理解」（中央法規） ②配布資料					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと。 専門用語を理解できるように自己学習をすること。				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明				9	人権尊重と権利擁護			
2	人間の尊厳と利用者理解				10	ハンセン病資料館見学			
3	人権思想の潮流とその具現化				11	自立の概念の多様性			
4	人権や尊厳に関する日本の諸規定				12	自立とは			
5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①				13	介護を必要とする人々の自立と自立支援			
6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②				14	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立 自立支援の関係性			
7	ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン				15	前期授業振り返りとまとめ			
8	QOLという考え方				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
			50%	50%		試験期間における定期試験なし レポート50% 授業内発表50%			
[教員実務経験] 公立校校長及び教育委員会の勤務経験と地域活動の経験がある。教育現場及び地域での人権について課題に取り組んだ経験がある。									

授業概要 (シラバス)

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
人間関係とコミュニケーション	講義	15	30	1	前期	水曜	3限	必修	鈴木 俊之
[科目のねらい] 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。									
[科目の概要] 利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。									
[到達目標] ①対人関係・コミュニケーションの意義や概要を学ぶ。 ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの技法、受容・共感・傾聴の技法、道具を用いた言語的コミュニケーションを学ぶ。									
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「人間の理解」(中央法規) ②配布資料					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと。 専門用語を理解できるように自己学習をすること。				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明				9	コミュニケーションの手段①			
2	人間らしさのはじまり				10	コミュニケーションの手段②			
3	自分と他者の理解				11	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション			
4	発達心理学からみた人間関係				12	対人援助における基本的態度①			
5	社会心理学からみた人間関係				13	対人援助における基本的態度②			
6	人間関係とストレス				14	援助的人間関係の形成とバイスティックの7つの原則			
7	コミュニケーションの概念				15	前期授業振り返りとまとめ			
8	コミュニケーションの基本構造				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			
[教員実務経験] 児童福祉施設における指導員として職務経験がある。また介護職員と相談員の経験を積んで、事業所の管理者として高齢者福祉に携わる。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
社会の理解Ⅰ	講義	15	30	1	後期	木曜	2限	必修	鈴木 俊之
[科目のねらい] 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。									
[科目の概要] 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学ぶ。									
[到達目標] ①個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。 ②地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解できる。									
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「社会の理解」（中央法規） ②配布資料					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと。 専門用語を理解できるように自己学習をすること。				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明				9	地域福祉の理念			
2	生活を幅広くとらえる				10	地域福祉の歴史的展開			
3	生活の基本機能				11	地域福祉の充実			
4	ライフスタイルの変化				12	災害と地域社会			
5	家族の機能と役割				13	地域共生社会			
6	社会・組織の機能と役割				14	地域包括ケア			
7	地域・地域社会				15	前期授業振り返りとまとめ			
8	地域社会における生活支援				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			
[教員実務経験] 児童福祉施設における指導員として職務経験がある。また介護職員と相談員の経験を積んで、事業所の管理者として高齢者福祉に携わる。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
社会の理解Ⅱ	講義	15	30	2	前期	火曜	3限	必修	松浦 信二

[科目のねらい]

- ①介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基本的知識を習得する。
- ②介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

[科目の概要]

介護と関連領域に必要な介護保険制度、障害者総合支援法、日常生活自立支援事業、成年後見制度、高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者差別解消法、障害者雇用促進法の概要について学ぶ。

[到達目標]

介護保険制度や障害者総合支援法について、創設の背景、目的、制度のしくみ、組織とその役割、専門職の役割について理解できる。介護実践にかかわる諸制度として、日常生活自立支援事業、成年後見制度、高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者差別解消法、障害者雇用促進法の概要について理解できる。

[使用教科書]

最新介護福祉士養成講座「社会の理解」（中央法規）

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと。
専門用語を理解できるように自己学習をすること。

回数	授業内容				回数	授業内容			
1	介護保険制度創設の目的				9	障害者総合支援法にかかわる組織とその役割			
2	介護保険制度のしくみ				10	ライフサイクルからみた障害者（児）の支援組織			
3	介護保険制度にかかわる組織とその役割				11	日常生活自立支援事業と成年後見制度			
4	介護保険制度における専門職の役割				12	高齢者虐待防止法と障害者虐待防止法			
5	介護保険制度改正の流れと地域包括ケア				13	児童虐待防止法と配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律			
6	障害者の自立と障害者総合支援法の目的				14	障害者差別解消法と障害者雇用促進法			
7	障害者福祉施策の動向				15	まとめ			
8	障害者総合支援法のしくみ				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			

[教員実務経験]

大学教員として、社会福祉士養成に携わる。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
文章表現	講義	15	30	1	後期	水曜	1限	必修	菊池 義信

[科目のねらい]

人が信頼を築いていく為には「聞く」「話す」「書く」「読む」などコミュニケーションの基本を確実に身につけることである。日本の伝統文化に触れ、礼節の心を学びながら情操豊かな人間の育成を目指す。

[科目の概要]

日本の会話や書いて伝えることを通して、相手を意識して信頼関係を築く表現の基本を学ぶ。また、コミュニケーションを高める為に溢れる情報の中から必要な選択をし活用する。自分の考えも分かりやすい表現にしたりと質を高める「受信力」と「発信力」を鍛えていく。

[到達目標]

- ①「聞く」「話す」「書く」「読む」のコミュニケーションの基本を身につけ、心を伝える表現ができる。
- ②情報社会の中、必要なものを選択し、活用する能力を身につける。
- ③社会現象の中で関心を持つようにし「イエスとノー」の多面的な見方を身につけ、自分の建設的な考えを発表できる。

[使用教科書]

配布資料

[授業外学習]

回数	授業内容	回数	授業内容
1	学ぶ目標、学び方を知る。 信頼関係を築く自己紹介をする。	9	前時に書いた小論文を発表し共同批正をしよう。
2	「人に愛され、信頼される」コミュニケーションの基本とは何だろう。考えよう。	10	学びに役立つメモの取り方、記録の取り方、相手に伝えるメモの取り方を考えよう。
3	恩師、親、友人に手紙を書こう。	11	仕事に役立つ、お礼文、報告文を考えよう。
4	感動したこと、伝えたいことを3分おきにまとめ話そう。	12	職場で信頼を得る報告分を書こう。
5	読みやすい文字の大きさと形、書き順を確認しよう。	13	組織人として礼節を重んじた言葉遣い、礼儀作法、来校者への対応を身につけよう。
6	コミュニケーションを高めるための「受信力」「発信力」を鍛えよう。	14	本科目を通して特に学んだことベスト3を理由を挙げて発表しよう。
7	日本の伝統文化から美しい言葉、参考にしたい文章表現を学ぼう。	15	「共に高め合う学習をする為に」話し合い、まとめとして教員の話聴く。
8	ある社会事象の中から「イエス・ノー」のパターンで答える小論文を書こう。	特記事項	

評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
				50%	50%	

[教員実務経験]

公立校校長及び教育委員会勤務経験と地域活動の経験がある。教育現場及び地域での人権について課題に取り組んだ経験がある。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
情報リテラシー	講義	15	30	1	前期	月曜	3限	必修	鈴木 俊之
[科目のねらい]									
コンピューターの基本操作及び情報についての基本的な知識の習得。									
[科目の概要]									
ワードを主にソフトウェアの操作、インターネットの検索、情報倫理・セキュリティについて学ぶ。									
[到達目標]									
1.ワードでビジネス文書が作成できるようになる。 2.インターネットで情報を検索できるようになる。 3.情報倫理・セキュリティについての常識を習得する。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
授業内資料配布									
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	情報機器の使用法 課題の配布・提出方法				9	ワード(5)段組み、インデント、タブの設定			
2	ローマ字入力、タッチタイピング				10	ワード(6)オブジェクトを使ったビジネス文章作成			
3	インターネット検索 検索エンジンの使い方				11	ワード(7)長文			
4	情報倫理・セキュリティについて				12	ワード(8)ポスター作成			
5	ワード(1)書式設定				13	エクセルの使い方			
6	ワード(2)簡単なビジネス文章作成				14	パワーポイントの使い方			
7	ワード(3)オブジェクトの挿入(1)図形、画像、テキストボックス				15	まとめ、試験			
8	ワード(4)オブジェクトの挿入(2)表、ワードアート、スマートアート				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	60%				40%	試験期間における定期試験あり 筆記試験60% 課題40%			
[教員実務経験]									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
特別教育演習	講義	15	30	1	前期	木曜	3限	必修	菊池 義信

[科目のねらい]

種々の社会貢献をする秋草学園は地域に根ざした学び舎を目指している。ここに学ぶ学生はまず「地域を知り、地域を愛し、地域の為に貢献する」心構えが必要である。この心構えを基盤として、地域の活動に積極的に参加し多くの方々と接することを通して、自分を高める気概を持つ。自分は何ができるのか、どうすることが地域の人々の役に立つのか考え、進んで実践する態度を身につける。

[科目の概要]

将来、介護福祉士を目指す学生は五感を駆使して多くの人を支える感性を身につけさせたい。そのために地域巡りや課題解決を図る話し合い活動、多くの方が喜び元気になるボランティア活動など座学と実学を組合せ学ぶ。

[到達目標]

多くの方々と触れ合いを通して「聴く、話す、読む、書く」を基本としたコミュニケーションが出来るようにする。人々が楽しめるゲームや音楽、地域の行事に参加、元気に生活できる健康体操などのボランティア活動を通して自信を持って社会貢献ができる主体的な人間となる。このことが本学園の建学の理念「愛され信頼される介護福祉士」につながると期待している。

[使用教科書]

- ①行政機関や民間団体が発行する広報資料
- ②担当教員が発行するテキスト

[授業外学習]

高齢者・障害者施設及び地域のボランティアに積極的に参加してください。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	ガイダンス この科目を学ぶにあたって	9	地域の環境美化運動に参加しよう
2	ボランティア活動って何だろう	10	今までの活動を振り返っての反省と今後の活動計画を話し合おう
3	秋草学園のある地域を知ろう (環境、交通、施設、地域の人々の生活、歴史等)	11	地域の体育的、文化的の行事に参加しよう (体育祭、文化祭)
4	地域を歩いて地域を知ろう	12	地域のボランティア活動に参加する準備をしよう①
5	柳瀬まちづくりセンターの役割を知ろう (施設、諸活動の見学)	13	地域のボランティア活動に参加する準備をしよう②
6	柳瀬地区住民代表の話を聞こう	14	この科目で学んだことをまとめよう
7	地域の施設を訪問しよう (小中学校、資料館等)	15	この科目で学んだことを発表しよう
8	地域のボランティア活動に参加する見通しを立て 参加計画を考えよう	特記 事項	※地域の行事、協力いただける方の都合により授業日程が変わることがあります

評価 方法	試験	小テスト	レポート	活動	課題	単位認定の方法及び基準
				50%	50%	

[教員実務経験]

公立校校長及び教育委員会勤務経験と地域活動の経験がある。教育現場及び地域での人権について課題に取り組んだ経験がある。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
社会保障関連制度論	講義	15	30	2	前期	火曜	4限	必修	松浦 信二

[科目のねらい]

社会保障制度の基本的考え方について理解し、介護実践に必要な観点から年金制度、医療保険制度、雇用保険と労働者災害補償保険の基本的知識を習得する。

[科目の概要]

社会保障制度の役割と意義、社会保障の歴史、社会保障制度のしくみを学ぶ。具体的には、社会保険としての年金制度の概要、医療保険制度の種類と内容、雇用保険と労働者災害補償保険の内容について学ぶ。

[到達目標]

社会保障制度の基本的な考え方、社会保障制度の歴史、社会保障制度のしくみ、社会保険の内容、年金制度のしくみ、医療保険の種類と内容、雇用保険と労働者災害補償保険の内容について理解できる。

[使用教科書]

- ①最新介護福祉士養成講座「社会の理解」中央法規
- ②「2020介護福祉士国家試験合格テキスト」中央法規

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと。
専門用語を理解できるように自己学習をすること。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	社会保障の基本的な考え方	9	雇用保険の歴史 雇用保険の給付内容
2	社会保障制度の役割と意義 社会保障制度の目的と機能	10	労働者災害補償保険の歴史 労働者災害補償保険の給付内容
3	社会保障制度の発達	11	過去の国家試験問題の傾向と対策 社会領域
4	日本国憲法における社会保障 戦後社会と社会保障基盤整備	12	過去の国家試験問題の傾向と対策 社会領域
5	社会保障制度のしくみ 社会保険の内容	13	過去の国家試験問題の傾向と対策 社会領域
6	年金保険制度の歴史 国民年金制度、厚生年金制度	14	過去の国家試験問題の傾向と対策 社会領域
7	医療保険制度の歴史 医療保険制度の種類と内容	15	まとめ
8	健康保険と国民健康保険 後期高齢者医療制度	特記 事項	

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	100%	/	/	/	/	

[教員実務経験]

大学教員として、社会福祉士養成に携わる。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
児童福祉論	講義	15	30	2	前期	火曜	2限	必修	山本 正司

[科目のねらい]

子どもを取り巻く環境は、歴史的に見て良くなってきましたが、現在も多くの社会的問題があります。障がい児をはじめとした生活支援が必要な子どもへの支援制度を理解すること。

[科目の概要]

子どもの「最善の利益」や権利擁護を目的とした児童福祉制度を体系的に学ぶことが出来るように講義・グループワークを通して学ぶ。

[到達目標]

子どもやその家庭における社会的な支援の方法・制度について理解ができるようになる。

[使用教科書]

児童家庭福祉論 社会福祉法人全国社会福祉協議会

[授業外学習]

学生各自が授業前・授業後の学習ができるように配慮します。

回数	授業内容				回数	授業内容			
1	授業の概要と最近の子どもに関する社会的問題				9	児童虐待と児童福祉司の活動			
2	子どもの「最善の利益」について				10	児童虐待の事例と未然防止対策			
3	子どもに関する社会観の変遷				11	児童養護の体系			
4	子どもの権利と人権思想				12	非行少年に対する相談・支援			
5	児童憲章・児童の権利に関する条約				13	DV被害者と子ども			
6	家庭機能と児童福祉				14	障がい児に対する支援制度			
7	待機児童の問題と養育問題				15	まとめ・試験			
8	児童相談所の役割				特記事項	DVDを使うことがあります			
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	5%			5%	試験期間における定期試験あり 筆記試験90% 小テスト5% 課題5%			

[教員実務経験]

児童相談所における相談員として、また児童相談所の一時保護所の児童指導員としての職務経験あり。